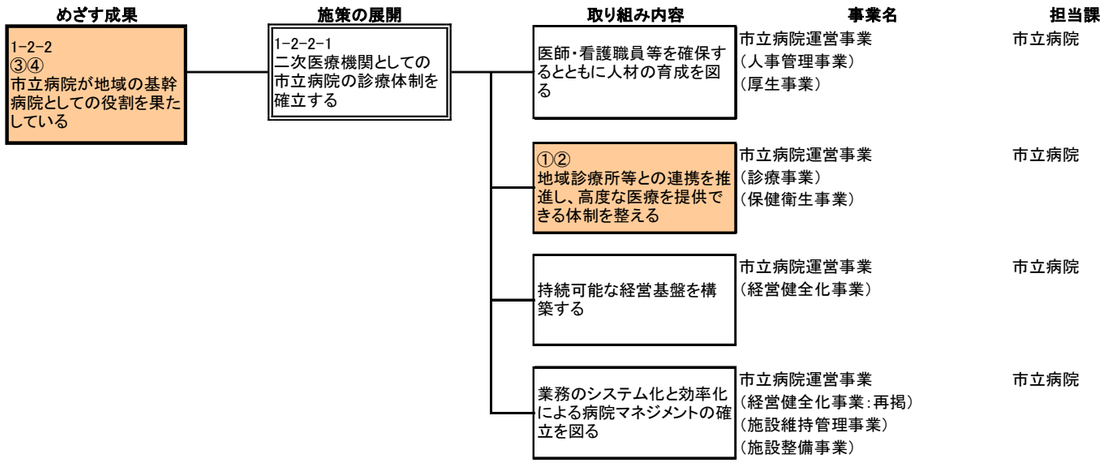
令和３年度「めざす成果」の達成に向けた進行管理シート

健康領域	人の健康	
基本目標	１	いつまでも元気でいられるまち
個別目標	１－２	いつでも必要な医療が受けられる
めざす成果	１－２－１	いざというときに診療を受けられる
	１－２－２	**市立病院が地域の基幹病院としての役割を果たしている**

「めざす成果」を達成するための施策展開（ロジックツリー）



所　管　部	市立病院

【成果を計る主な指標】

	指標の名称	前期基本計画期間（Ｒ１～Ｒ５年度）				
		計画当初値	実績値（Ｒ１）	実績値（Ｒ２）	中間目標値（Ｒ３）	最終目標値（Ｒ５）
①	地域の診療所等から市立病院に紹介された患者の割合（紹介率）	６０．９％	７６．０％	７８．６％	７３．２％	８０．３％
②	市立病院から地域の診療所等に紹介した患者の割合（逆紹介率）	２９．６％	６０．９％	７９．２％	５４．５％	７４．０％
③	患者満足度調査における満足度の割合	８８．７％	８８．４％	８１．６％	９１．０％	９３．０％
④	がん患者受入数（延べ）	４２，９６６人	４４，７８１人	４０，２２３人	４８，０００人	５０，０００人

【令和２年度までの主な取り組み内容及び今後の方針】

施策の展開	主な取り組み内容	今後の方針
二次医療機関としての市立病院の診療体制を確立する	■医師等人材確保に努め、チーム医療を推進するとともに、最新の医療機器等の導入を図り、診療機能を強化しました。 ■地域がん診療連携拠点病院※１として、県央二次保健医療圏※２の中で高い水準の放射線治療を行えるよう機能の拡充を図りました。 ■地域医療支援病院として、地域医療を支えるため、他の医療機関との連携を促進しました。 ■新型コロナウイルス感染症の医療従事者向けワクチン接種を、医師や看護師等に実施しました。	■地域医療を支える公立病院として、必要な医療サービスの提供に努めるとともに、収入確保や支出削減にも取り組みながら、安定した病院経営を行っていきます。 ■市立病院で提供する医療サービスや、経営改善に関する取り組みを広く周知します。 ■災害医療拠点病院※３としての機能の維持向上を図るため、県とも協調し、実地訓練の実施や各種訓練に今後も参加します。 ■大規模災害時等には、被災地等からの要請を受け、応急救護活動のための災害派遣医療チーム（DMAT）を派遣します。

※１：地域がん診療連携連携拠点病院とは、全国どこでも質の高いがん医療を提供できるよう、厚生労働大臣が指定する病院で、原則として二次保健医療圏に１か所ずつ整備します。

※２：二次保健医療圏とは、地理的条件等の自然的条件及び日常生活の需要の充足状態、交通事情等の社会的条件を考慮して一体の区域として病院における入院にかかる医療を提供する体制の確保を図ることが相当であると認められる区域と定義されており、一般的な入院医療への対応を図り、保健・医療・福祉の連携した総合的な取組みを行うために市区町村域を超えて設定する圏域です。

※３：災害医療拠点病院とは、災害時において地域の医療機関を支援する機能を有し、医療救護活動において中心的な役割を担う病院です。

※連携の事例

事務事業等	関係する課等	取り組み内容
新型コロナワクチン接種に係る事業	市立病院 医療健診課 新型コロナワクチン接種担当	新型コロナワクチンの住民接種について、接種希望者にできるだけ速やかに接種出来るよう、関係課との連携・協議を行いながら、実施しています。